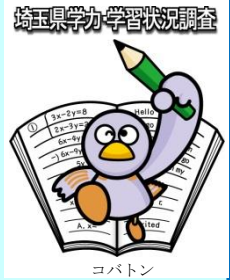


学力向上研究校指定事業



(1) 目的

埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果等を活用し、学校における検証改善サイクルの確立に向けた、実践的研究を目指す。

(2) 学力向上研究指定、学力向上研究指定校

行田市教育委員会、行田市立西小学校

(3) 内容

- ① 埼玉県学力・学習状況調査及び全国学力・学習状況調査の結果等を活用し、児童生徒一人一人の学力を伸ばす研究を行う。
- ② 全国学力・学習状況調査や埼玉県学力・学習状況調査結果を使って、効果検証を行う。
- ③ 取組成果の普及のため、学力向上推進協議会等における発表や効果的な取組に係る資料の提供を行う。

授業研究会 平成29年11月16日(木)

【実践及び成果】

○「書く活動」を取り入れた授業改善や新聞を活用し内容を読み取るスキルアップタイムの取組により、書くことが苦手な児童の学力の伸びが見られた。



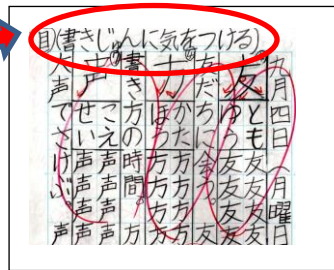
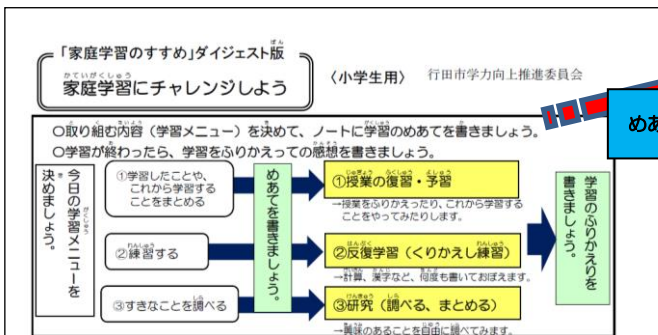
スキルアップタイム

○年に3回の速読力、視写力、鉛筆の持ち方などの基礎学力実態調査や漢字テストを実施し、「読むこと・書くこと」を中心とした個人カルテを作成し、児童の実態把握及び効果的な指導方法の工夫を図ることができた。

名前		1年		2年	
		6月末	10月末	2月末	6月末
1	鉛筆を正しく持つことができる。		△	△	○
2	15音節の漢字が読める。	30.5	42.4	49.4	
3	15音節の仮名が読める。	29	39	42	
4	ひらがな46文字が読める。		○	○	
5	ひらがな46文字が書ける。		○	○	
6	カタカナ46文字が読める。		○	○	
7	カタカナ46文字が書ける。		○	○	
8	長音・短音・促音を正しく使うことができる。		○	○	
9	「は・へ・を」の振りが正しく使うことができる。		○	○	
10	国語教科書の読み方がわかる。				
11	一年の漢字(80)		読める	80	80
12			書ける	79	80
13	二年の漢字(160)				

個人カルテ

○行田版「家庭学習のすすめ」ダイジェスト版を活用し、はじめに「めあて」を書き、最後に「ふりかえり」を書かせた。目的意識をもち、家庭学習に主体的に取り組ませることができた。



家庭学習

○学び合いの充実を図るため、「対話」活動を1時間の授業の中に位置づけた。中でも特に「他者との対話」を徹底したことで、交流が発表会となることなく、充実したものとなった。

対話の3つの条件



- 1 短く 交互に
- 2 態度に示しながら
- 3 沈黙の時間をつくらない

学び合いの充実

